

令和2年度海岸漂着物実態調査の結果（概要）

県内海岸における漂着物の経年的な組成と量の推移等を把握するために、組成調査を実施

【調査時期】 12月（冬季）

【調査地点】 4地点

【調査結果】

- ・全地点で自然物及びプラスチックの割合が高かった。
- ・日本海側は、重量・容積が大きく、一つ一つが大きなもの漂着しており、国外からの漂着物が目立った。
- ・響灘側は、プラスチックの割合が高く、生活系と漁具が同程度に漂着していた。
- ・瀬戸内海側は、比較的小さなカキ養殖用資材が数多く漂着していた。
- ・昨年度と比べ、美濃が浜を除き、プラスチックの割合が減少した（R1：平均86.3%、R2：69.6%）。特に、神浦海岸のカキ養殖用のパイプが大幅に減少した（R1：4,980個、R2：359個）。

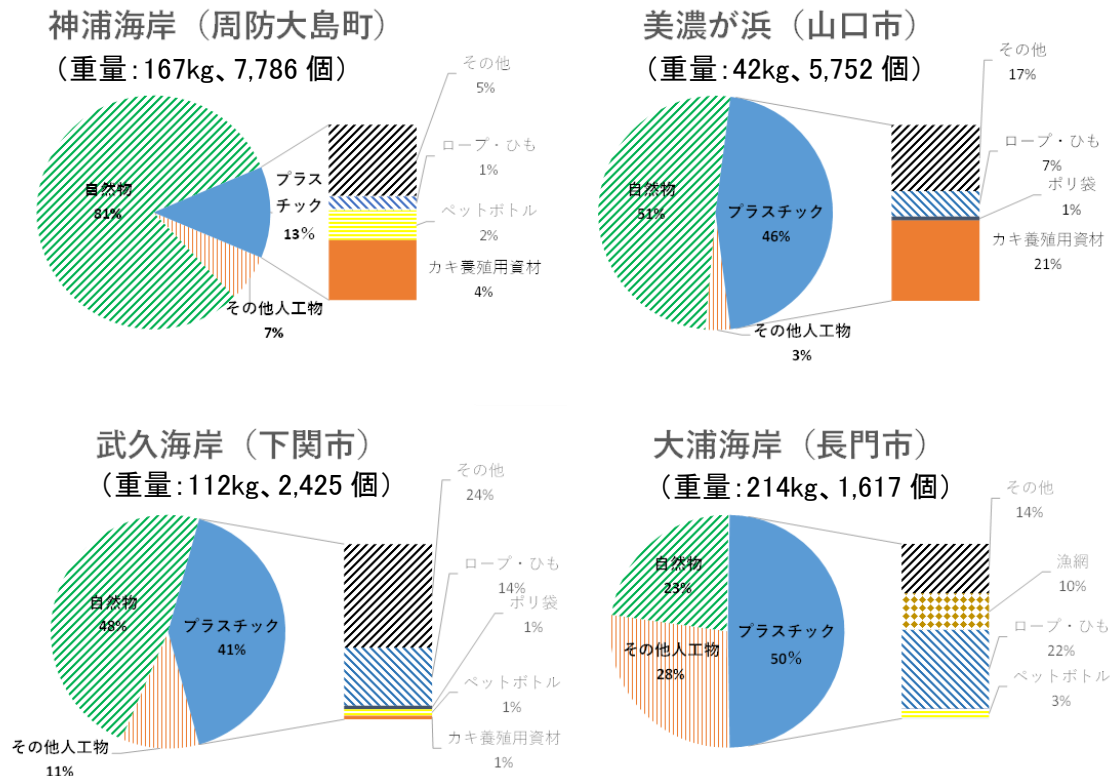
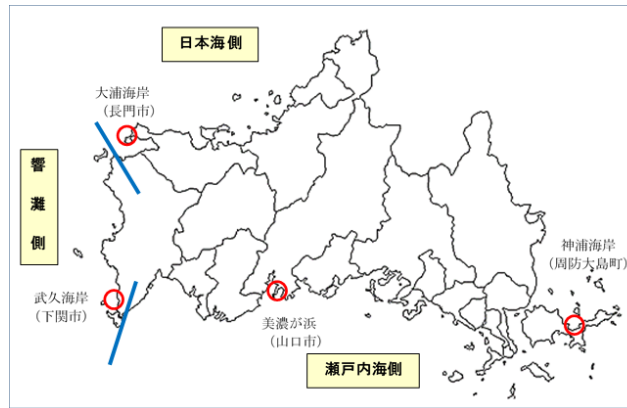


図 海岸漂着物の組成（重量）